

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、4 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立南多摩中等教育学校

問題は次のページからです。

次の文章を読み、あとの問題に答えなさい。

(＊印のついている言葉には本文のあとに〔注〕があります。)

研究や学習を進めるためにはきっちりわからなくなれることが大事です。「きっちりわからなくなれる」とは少し奇妙^{きみょう}に響く^{ひび}かもしれませんが、次のように考えて下さい。

われわれは自然や世の中に対して知らないことばかりですから、自分のわかっていないことを見つけ出すのは、ごく容易^{りよう}なことだともうかもしれません。ところがそうではないのです。その理由には、大ざっぱにいつて2種類あります。

まず、難^{むずか}しくてまったくよくわからないという分野について考えてみましょう。われわれにとって、そういった分野や領域^{りよういき}はいくらでもありますし、よくわかっていないという実感も持っています。しかし、こういう分野や領域でどこがわかっていないのかを明確^{*}にピンポイントに言うことはまず無理です。ピンポイントに言えませんが、追究^{*}をどのようにすればいいのか、エネルギーを傾注^{きけいちりゅう}しなければならない場所も定^{さだ}かではありません。

ここがわかっていないとか、ここが繋が^{つな}らないとかと明確に言えるようになるのは、学習が進んである程度^{ばくぜん}のことがわかった後です。漠然^{ばくぜん}とわからないとか、まったく苦手の領域で手を付けていないとか、投げ出しているという状態はいくらでもあります。しかし、ここを調べれば

いいとか、ここが繋が^{*}っていないとか、ピンポイントにわからない状態になれるためには、その付近の知識^{*}がかなりシステムティックにしっかりしてこないと無理なのです。

もう少し言えば、ピンポイントに問題点^{してき}が指摘^{*}できるためには、必要条件としてその手前まではわかっていなければならぬのです。資料を渉獵^{*しやうりやう}し「こういうことだったのか」とわかり、それを足がかりとして「あそこもそうなるのだろうか」とか「では、どうしてここはそうならないのか」と、初めてわからなくなれるわけです。ピンポイントにわからなくなれるためには、足がかりが必要なのです。足がかりを構築^{*}できるまでは、ぼんやりとしたわからない状態^{*}でしかありません。ただただ苦手と感じているに過ぎない状態だと言えるかもしれません。

自分がわかっていない点をピンポイントに確定するのはなかなか困難^{こんなん}で、それには2種類あると言いました。そのもうひとつの種類は、「知ってるつもり」という状態に関わるものです。

われわれが「知ってるつもり」でいることもいくらもあります。日常的な^{せんもんでき}ことでも専門^{せんもん}的な分野においても、当たり前だと思って、なぜそうなのかわか^{せい}を省察^{せいさつ}しない場合はいくらでもあります。この場合も、われわれは当たり前だとか、そういうものだと思っているのですから、明確^{ぜいもん}に疑問^{ぎもん}を持つことにはなりません。

大学生と学校方向に歩いていて、以下のような会話をよく聞きました。

「講義で聞いたんだけど、ジャガイモは茎くきなんだって」

「知ってる、知ってる。サツマイモは根なんでしょ」

「そうそう」

さてそこから、どんな話になるのかなと期待してつい聞き耳を立てるのですが、その話はそこまでで、「ところで」と、まったく別のアルバイトの話などに、じつに簡単かんたんにジャンプしてしまう場合がほとんどでした。

大学生にジャガイモやサツマイモに関して個別に聞いてみると、それぞれが茎であるとか根であるとかを知らない人ももちろんいますが、知ってる人が大部分です。ただ、質問を続けていると彼らかれの会話が他に簡単にジャンプしてしまう理由がわかってきます。彼らはジャガイモが茎であるとかサツマイモが根であるとかは知っていますが、その知識を持っているだけなのです。その周辺の知識はまず持っていない。イモとは何かとか、どうして茎や根なのか、茎や根以外のイモはないのかとかは気にもしていません。そして、十分に「知ってるつもり」なのです。

彼らにとって、「ジャガイモは茎」「サツマイモは根」はただの孤立こりつした知識です。「ジャガイモは茎」「サツマイモは根」と知ってはいますが、そこから派生はせいしたり関係する周辺の知識群そんぐいが存在するとは思っていません。そして彼らは「知ってるつもり」でいます。それ以上のことはないと感じているので、その話は終わって次にジャンプするのです。

大して知らないのに「知ってるつもり」でいられるのを不思議に思われるかもしれませんが。それへの回答は簡単です。「知ってるつもり」の知識は、孤立した他と関連しない知識ですから、そこから疑問や推測すいそくを生み出すことなく、わからなくならないので「知ってるつもり」でいられるのです。よく知らないので疑問を生じることがないから「知ってるつもり」でいられるのです。

対象に対して「まったくわかっていない」ので具体的な手が打てないでいるのと、「知ってるつもり」でいて疑問を持たないというのは、確かに入り口としてはかなり違ちがった状況じょうきょうです。しかし、そこからピンポイントにわからなくなれるための作業は似通ってくる、ないしは原理的に同じです。というのはどちらも、わからなくなれる程度に知識①システムを整備し、ある程度わかってくる必要があるからです。

(西林克彦にしばやし かつひこ「知ってるつもり『問題発見力』を高める『知識システム』の作り方」による)

〔注〕

ピンポイント——正確な位置。限定されたせまい地点。

傾注^{けいちゅう}——ある事に心や力を集中すること。

システムティック——一つ一つの物事が、ある順序やきまりにしたがってよくまとまっている様子。

必要条件——必要な条件。

渉獵^{しょうりょう}——広くさがし求めること。

構築——組み立てて作り上げること。

省察^{せいさつ}——自らふりかえってみて考えること。

派生^{はせい}——もととなる物事から分かれて出てくること。

知識群——知識のまとまり。

ないしは——または。

〔問題1〕 ⑦ ところがそうではないのです。とありますが、筆者が「そうではない」と考える理由を五十字以内で説明しなさい。

なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数え、一ますめから書き始めること。

〔問題2〕 ④ 知識システムを整備とありますが、筆者が考える「知識システムを整備」とするとはどういうことか、「生み出す」という言葉を必ず使って、四十字以内で説明しなさい。

なお、ゝや。や「なども、それぞれ字数に数え、一ますめから書き始めること。

〔問題3〕 あなたが興味のある分野において、物事を深く調べ考えていくうえで、日ごろからどのような知識を身に付けたいと考えますか。またその知識をどのように生かしていきたいですか。本文をふまえて、あなたの考えを、三百字以上四百字以内で書きなさい。ただし、あとの〔手順〕と〔きまり〕にしたがうこと。

〔手順〕

1 あなたがこれまで身に付けてきた知識を書き、その知識を生かした経験を書く。

2 〔手順〕1で書いたことと、知識について本文で書かれていることを比べて、あなたが気付いたことをくわしく説明する。

3 あなたはこれからどのような知識を身に付け、それをどのように生かしていきたいかを、本文をふまえて具体的に書く。

〔きまり〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。かくだんらく

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○ ゝや。や「などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます。（ますめの下に書いてもかまいません。）

○ 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、。」で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。